

令和3年度 第6回狛江市基本計画推進委員会会議録

- 1 日 時 令和3年10月13日（水）午後7時00分～午後8時45分
- 2 場 所 第一委員会室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 委 員 尾花 尚弥
委 員 猪熊 茂男 委 員 落合 香代子
委 員 小尾 将彦 委 員 マクリーン 由美
委 員 八峠 恵子 委 員 高橋 良典
事務局 富田政策室長 五十嶺企画調整担当主任
猪野企画調整担当主事
- 4 欠席者 副委員長 上田 英司 委 員 牧瀬 稔
- 5 傍聴者 1名
- 5 議 事 1. SDGsに対する評価について
2. 令和3年度狛江市基本計画推進委員会提言書（案）について
3. その他

6 会議概要

1. SDGsに対する評価について

—事務局から説明—

【委員】

資料1の5～7ページの狛江市の取組について、数値目標を達成しているものは整理した方がいいのではないかと。また、SDGsを見越した目標ではないため、SDGsの目標として、どう関連付けていくのか。市が実施しただけではなく、何に向かって実施したのかを明確にしなければいけないと思う。

【委員長】

基本計画の目標値を達成できているものは、方向性が示されているので、その方向性に沿って更に進めていくという理解でいいのではないかと。

【事務局】

基本計画の指標について、数値を見直すことはできないが、目標値を達成した場合、次年度は前年度の目標を超えることを目標とするということになっている。

【委員】

資料1の1ページ「②経済的自立により生活保護を廃止した世帯の数」について、令和2年度については12世帯ということだが、平成31年度以前はなかったのか。また、目標値の115とかなり差があるようだが、現実的な数値なのか。

「③狛江市自立相談支援事業（こま YELL）の自室相談支援事業」が大幅に増加しているのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、申請が増えたということではないのか。

【事務局】

②の指標は計画始期の令和2年度からの指標であり、計画策定時の平成31年度末の数値しか把握していない。また目標値である115という数値は、令和2年度から令和6年度までの累計の数値となっている。わかりやすくするため、累計については注釈を入れさせていただく。

③については、相談件数も増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響による住居確保給付金の申請件数が多くなっている。

【委員】

資料1の1ページ、「貧困をなくそう」の④生活保護費割合について、注釈で約100億円が増加した理由があるが、それを除くと例年と変わっていないということか。変わっていないのであれば、令和2年度が減っているように見せる理由はあるのか。

【事務局】

総歳出の分母が100億円増加したので、割合として、低くなってしまっている。新型コロナウイルス感染症による増額がなければ例年とはあまり変わらない。本指標は地方創生SDGsローカル指標で示された算出方法で算出している。そのままの数値を掲載すると数値が下がっているように見えるため、注釈にて数値が下がっている理由を付している。

2. 令和3年度狛江市基本計画推進委員会提言書（案）について

—事務局から説明—

【委員長】

資料2の21ページ「2 さらなるパートナーシップの推進に関して」の2段落目、狛江市との連携について、民間同士の連携のことを示していると思うので、「狛江市との連携」という言葉は削除してもいいのではないかと。

【委員】

「3 SDGsの事務事業の関係性に関して」にあるアウトカム指標については「市民等が」ではなく「市民等に」向けたものではないかと。今一度文章を整理していただきたい。

【委員】

資料2の9ページ、「1 避難所に関して」の中で、車での移動を余儀なくされる方たちを意識した文言を入れるべきではないかと。市として、忘れられないよう改めて明記することにより、車での移動を余儀なくされる方がどれだけいて、どれくらい避難所として確保すればいいのかという意識にもつながるのではないかと。

また、「2 隣接自治体との災害時相互連携に関して」の中で、「相互の」連携や受入れについて、明確に記載した方がいいのではないか。

【委員長】

自動車の利用を含めて、単なる自動車だけではなく、移動困難者という表現で検討していただきたい。

また、隣接自治体との相互の受入れについて、という部分については、「相互」というフレーズの加筆をお願いする。

【委員】

災害行動変容というフレーズについて、伝わりにくいのではないか。

【委員】

日常的に災害が起きた際に、素早く避難行動に移ることができるよう、市の取組により、市民の行動を変えろという視点も重要なので、残した方がいいのではないか。

【委員長】

災害時の行動変容等、主旨が伝わるよう、工夫を加えていただきたい。

【事務局】

いただいた意見を踏まえ、文言を修正する。

【委員】

11 ページ「2 緑の創出に関して」中で、都市計画の管理部門と道路行政等が積極的に緑の創出等に取り組んでいくこと、そして連携することを明確に記載した方がわかりやすいのではないか。

【委員】

都市計画の中で、緑の創出について、明確に位置付けるのであれば、残してもいいと思う。明確に位置付けられておらず、既存の施策の中で行っていくのであれば、もっとシンプルな表現にしてもいいと思う。

【委員長】

施策評価としての提言書であることを踏まえて、表現については検討をお願いする。

【委員】

13 ページ「1 広報紙に関して」、発行部数等が全世帯数を下回っているものについては、広報こまえについて記載した方がいいのではないか。

【委員長】

広報こまえに限定してもいいという意見だが、市の基幹広報紙であることも踏まえ、記載について検討していただきたい。

【委員】

17 ページについて、生活保護から自立できた例を掘り下げていくような追記をお願いしたい。また、有望な若者等について、支援についても記載を再考いただきたい。

【委員長】

生活保護に関して、支援のノウハウは蓄積しているということで良いか。

【事務局】

お見込みのとおり、ノウハウは蓄積し、引き継いでいる。ただし、今回は「子どもの貧困の連鎖防止」という方向性になるので、「1 生活困窮世帯への支援に関して」及び「2 連携による取組の拡充に関して」の2点の記載としている。

【委員】

「子ども」となると義務教育世代に注目されがちであるが、義務教育を終えても貧困には変わらない。義務教育終了後の子どもについても、支援を考えるという部分の加筆についても検討いただきたい。

【委員長】

「1 生活困窮世帯への支援に関して」の最後の文章で、今の意見についても触れていると読み取れる。

【事務局】

いただいた意見の主旨がより伝わるよう、表現を修正させていただく。

【委員長】

22 ページの「6. おわりに」の2段落目で、部署間連携や民間企業との連携についての記載があるが、「風水害に対する備えの強化」で、近隣自治体との連携についての提言があるので、加筆していただきたい。

3. その他

－議題2については、意見等の反映を事務局にて検討し、確定については委員長一任とさせていただく。－

－令和3年度の本委員会の活動は終了とし、令和4年3月を目途に、提言書を受けての各課の対応について報告させていただく。－